

心待ちにしている第12回名画セミナー ～講師：人気キュレーター林綾野～

ぼくはクロード・モネ

著：林綾野 文：たんふるたん



印象派を代表するフランスの画家モネというと、「印象派」という名称の由来となった作品《印象・日の出》や晩年の連作《睡蓮》などを思い浮かべる人も多いと思います。どの作品も、光を浴びて変化する色彩や効果的な水面の表現が特徴的です。国立西洋美術館、ポーラ美術館にもモネの作品が多く所蔵されています。

今日までの名画セミナーでは、林綾野さんが画像を見ながら作品を解説し、画家や名画への研究と熱い思いが参加者に伝わり好評を得てきました。「美術展での絵画解説と違い画家の時代背景や生活に基づいてのお話は楽しい。林先生の画家への思い入れや、キュレーターとしての情熱が感じられて、あっという間の2時間でした」との声も寄せられ、名画セミナーを楽しみにしている人もいます。

第12回名画セミナーは、「睡蓮を描いた画家モネ、連作の魅力に迫る」をテーマに開催します。林さんは、以前、モネが暮らしていたジュヴェルニーの家と庭を本の取材のため訪ねたそうです。そのとき、絵筆を握り、同じ池の上を見つめながら、睡蓮という一つのテーマに30年近く取り組んだモネの魂をはっきりと感じたと述べています。

絵画にささげたひたむきで一途なモネの生き様は、時に私たちを励まし、勇気づけてくれるとも述べています。そういえば、アーティゾン美術館でモネの「黄昏、ヴェネツィア」を観てほっとしたことを思い出します。林さんは、光の画家モネの人生を見つめ紐解くものがたり「ぼくはクロード・モネ」や「モネ 庭とレシピ」など画家の食や暮らしを紹介する本も執筆しています。

モネは、日本人に人気が高い画家です。なぜでしょうか。モネが熱心な浮世絵の収集家で浮世絵の影響を受けたことから、日本人に愛される心情をもっていたからかもしれません。今回の名画セミナーは、睡蓮を描いた画家モネ、連作の魅力に迫ります。この名画セミナーにより、光の画家モネの理解をさらに深め、鑑賞する喜びの一助にいただければ幸いです。